

図書だより

2019年 5月 11日 第02号

シンガポール日本語補習授業校

課題図書が届きました！

第65回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書本が図書室に入りました。貸出は、5月11日（土）からです。

今年もおもしろそうな本が選ばれています。ぜひ、読書感想文を書いてコンクールに参加してください。



小学校低学年向け



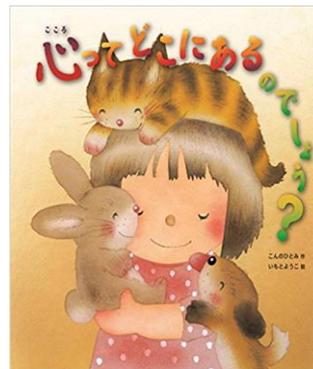
「魔女ののろいアメ」
草野あきこ著

魔女が売っていたのは、悪口を10こいいながらつくる「のろいアメ」。サキが、大きらいなおねえちゃんを思いうかべて悪口を言うと……。



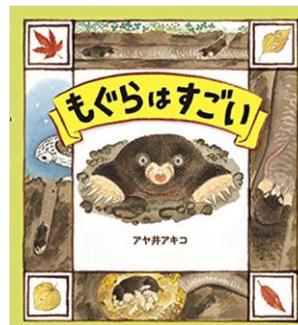
「スタンリーとちいさな火星」
サイモン・ジェームズ著

かあさんが仕事で出張にでかけた日、スタンリーは火星へと飛び立ちました。すると、入れかわりにやってきたのは、スタンリーによく似た小さな火星。地球の調査のためにやってきたというこの火星、いつもヘルメットをかぶっていて、手は洗わないし、お風呂にも入りません。そのうえ、学校では親友のジョシュをつきとぼして、泣かせてしまいます。そんな一日が終わり、かあさんが帰ってくると、火星人は……？



「心はどこにあるの？」
こんのひとみ著

心はどこにある？好きな人の前で赤くなるからほっぺ？ドキドキするから胸？いやなことがあると痛くなるから、おなかかな。犬の心はしっぽにあるかもしれない。いろんな涙があるから目にあるのかも…。温かい絵と文で贈る“心えほん”。



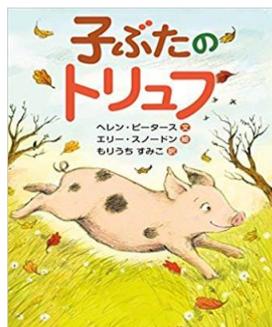
「もぐらはすごい」
アヤ井アキコ著

土の中はまっくら。なのに、どうしてわかるの？歩けるの？いつ寝るの？いつ起きるの？あなの中はどうなってるの？知らないことだらけ、びっくりだらけ。—もぐらはすごい！

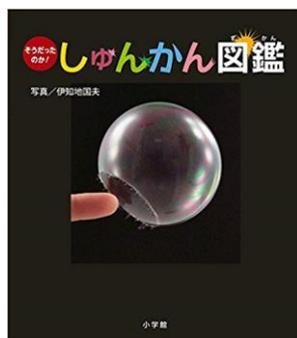
小学校中学年向け



「かみさまにあいたい」
当原珠樹著



「子ぶたのトリュフ」
ヘレン・ピーターズ著



「そうだったのか！しゅんかん図鑑」
伊知地国夫著



「ハチごはん」
横塚眞己人著

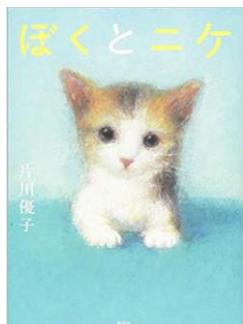
大好きだったおばあちゃんに、うそをついたまま永遠の別れを迎えてしまった雄一。ひよんなことから、同級生の竜也といっしょに、「神さま」との交信を試みるが……。心の傷を抱えた少年たちのひみつの友情と成長の物語。

お母さんぶたのおっぱいもすえなかった赤ちゃんぶたは、ジャスミンのけんめいな世話をとりとめる。そしてあらしの夜、かしい子ぶたに成長したトリュフは、行方不明になったモルモットを、においをたよりに追いかける。

しゅんかんの世界へようこそ！ふだんなにげなく見ているものも、その一瞬を「ストップ!」。切りとってみると…?肉眼では見えないものが見えてくるから不思議です。実際に見えるものとはちがう現象だったり、見えていたはずが、じつは残像だったり!この本は、1秒に何千ものコマで“一瞬”を切り取る「しゅんかん」写真家のわざの結晶です。なんだから、おもしろいな…と思うことこそ、科学への興味の第一歩。まずは、しゅんかん画像をぞんぶんに楽しみてください!

岐阜県の郷土料理のひとつに、「ヘボの甘露煮」というものがあります。「ヘボ」とはこの地方の呼び名で、クロスズメバチという種類のハチです。ハチを食べると聞くとおどろくかもしれませんが、むかしから、日本各地や世界中で、虫は食べられてきました。日本の一部の地域では、今も、季節のごちそうとして虫を食べているのです。いったい、どんなふうにかを食べているのでしょうか。

小学校高学年向け



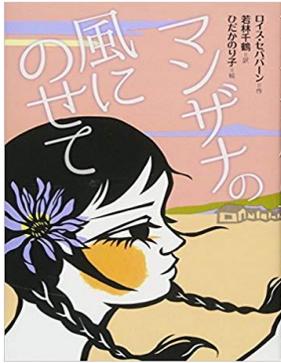
「ぼくとニケ」 片川優子著

大きな赤いかべがありました。いつからなのか、どうしてなのかだれもしりません。ねずみはかべのむこうが知りたくて鳥にたずねると…。

「かべのむこうになにがある？」ブリッタ・テッケントラップ著

ある日、子猫がやってきた——。5年生で突然登校拒否になった幼なじみの仁菜が、薄汚れた子猫を拾い、ぼくの家へ連れてきました。自分の家で飼えない仁菜にかわって、ぼくと家族が世話をすることになったのだけれど……。子猫のニケに関わる中で数々のことを学んでいく、ぼくの様子があいまいに紡がれます。15歳で講談社児童文学新人賞佳作を受賞し鮮烈デビューした獣医師が描く、大切なお話です。



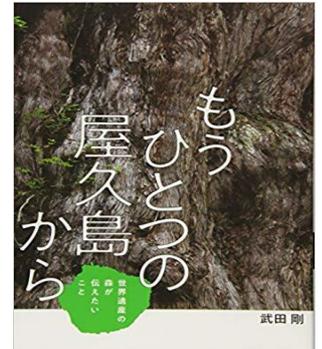


「マンザナの風にのせて」ロイス・セパバーン著

1942年、アメリカ。日系アメリカ人のマナミは、ワシントン州ベインブリッジ島で、家族と幸せに暮らしていた。いつものように学校へ通い、友達と遊ぶ日々は、ある日突然変わってしまった。家族で「強制立ち退き」しなければならなくなったのだという。愛犬トモとも別れて、住みなれた土地をはなれなければいけなくなった…。

「もうひとつの屋久島から」武田剛著

1993年、日本で初めて世界遺産に登録された屋久島。この自然豊かな島のいたる所で、その11年前まで広大な原生林が伐採されていた事実があった！屋久島の過去・現在・未来にせまる、渾身のドキュメンタリー。



中学生向け



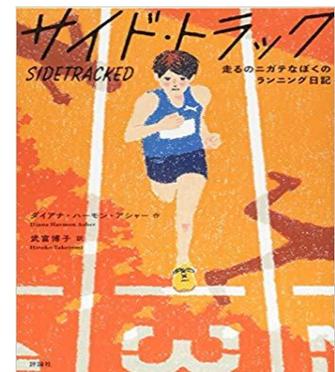
「星の旅人」
小前亮著

行方知れずの父を探すため、少年は伊能隊と共に旅をする。没後200年を迎えた伊能忠敬の足跡を少年の視点で描く歴史読み物。伊能忠敬の生い立ちや、時代背景、当時の風俗、測量技術の進化など、解説ページも充実。



「ある晴れた夏の朝」
小手鞠るい著

アメリカの8人の高校生が、広島・長崎に落とされた原子爆弾の是非をディベートする。肯定派、否定派、それぞれのメンバーは、日系アメリカ人のメイ(主人公)をはじめ、アイルランド系、中国系、ユダヤ系、アフリカ系と、そのルーツはさまざま。はたして、どのような議論がくりひろげられるのか。そして、勝敗の行方は？



「サイド・トラック」
ダイアナ・ハーモン・アシャ著

ジョセフは中学一年生。ADD(注意欠陥障害)があり、集中しなくてはいけないときに気が散ってしまう。そんなジョセフが、陸上競技クラブに入ることになってしまい、クロスカントリーに挑戦する。大キライな運動。だけど、最後までやりぬくだけでいい、歩いてもいい、と監督に励まされ、なんとか続けるうちに……読後感さわやかな、楽しい物語。